

2017年7月

Klark Yoshid の校長室だより 2017年(3)

～2017年度前期終業礼拝奨励～



校長 吉田幸一

静岡英和女学院のホームページ“校長室だより”によるこそ！

今回は、2017年度前期終業礼拝奨励の内容についてお知らせいたします。

4月7日の始業礼拝、入学礼拝から本日の終業礼拝まで、私たちを見守ってくださった神様に感謝いたします。

本日は、前期の終業礼拝となります。これから各人に通知表が手渡されます。学業のこと、生活態度等のことについて、前期の振り返りをきちんと行ってほしいと思います。教科や学校における行いについて努力が不足していた、十分な成果が出せなかった事柄については後期に努力の証が成果に結びつくよう、どのようにしたら良いのかを考えてみましょう。また、学習、部活動、学校行事等の指導にあたってくれた先生方に感謝すると共に、クラスメートや部活の先輩、後輩にも感謝の気持ちをもってほしいと思います。

さて、夏休みの期間は、比較的自由度のある時間もあることから、日頃の生活では十分にできない事柄について、少し時間を費やすように心がけてみてはどうでしょうか。たとえば、照りかえるような暑さのなかでは外出を控え、読書に時間を割いてみるとか、社会の動きに目を留めながら世界のフィールドに目を向けるなどしながら、自分を今一度見つめ直す時間としてはどうでしょうか。入学礼拝の際、Pepper 楓さんが「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。」と聖書の御言葉を唱えたように、生徒の皆さんも知的探究心を失うことなく、夏休みを有意義に過ごしてほしいと思います。

次に、学校生活上の問題や改善点などに関しアンケートを実施しました。

この4月に校長室前にリクエスト・ボックスを設置しました。生徒の皆さん、先生方から30件あまりリクエストが寄せられました。その多くは授業についての要望です。教科ごとに先生方に皆さんからの要望を考えてもらっています。今すぐ実行できるものと少し時間が

かかる内容のものがあります。少し時間をかけて見てもらえると、学校の変化が理解できると思います。アンケートに話しを戻しますが、他人の嫌がることや他人をからかうことなどは善い行いとはいえません。自分がされて嫌なことは周囲の人にはしてはいけません。私たちの学校は、キリスト教の倫理観に基づいた「愛と奉仕」をスクール・モットーとする学校です。学院聖句である「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい。」(ルカによる福音書 10 章 27 節) のように隣人愛をととても大事にしています。神様が常に皆さんの傍らにいてくださいますので、善い行いによる学校生活を信じています。

It is not growing like a tree  
In bulk, doth make Man better be:  
Or standing long an oak, three hundred year,  
To fall a log at last, dry, bald, and sere:  
A lily of a day  
Is fairer far in May  
Although in fall and die that night-  
It was the plant and flower of Light  
In small proportions we just beauties see:  
And in short measures life may perfect be,

Ben Jonson

人間がよりよき人間となってゆくのは  
木が図体だけ大きくなってゆくのは違う。  
櫨の木が三百年もただ単に立ったあげく、  
老いさらばえて丸太となって、倒れてゆくのは違う。  
それよりも、一日の命を生きる  
五月の白百合の方が見事なのだ、  
たとえ一晩で凋んで死んでゆくにしても、・・・・  
永遠の光を宿す草花であったからだ。  
小さければ小さいなりに、そこに美がある、一  
束の間の命のうちにも、完璧な人生はあるのだ。

それでは、8月28日の後期の始業礼拝でお会いしましょう。